

妊娠時期による、妊娠・出産のイメージの変化

久保田 君 枝¹⁾・南 谷 佐知子²⁾

1) 静岡県立大学短期大学部

2) 県西部浜松医療センター

How Pregn Women Feel And Prepare For Their Delivery

KUBOTA, Kimie

MINAMIYA, Sachiko

はじめに

女性が妊娠することは生理的なことではあるが、生物学的変化に適応することと母親役割の精神的適応が要求される。カプラン¹⁾は妊娠の適応課題として、「妊娠の受容と胎児をひとりの個体として容認する」ことをあげている。初産婦の85%は妊娠初期では拒否的な感情がみられるが、一般に、妊婦は胎動の知覚によって胎児の存在を確認し、母親になることを自覚するといわれている。また、南野²⁾は「準備された妊娠は受容がよく、妊娠の受容がよいことは前向きで主体的な分娩への受容にもつながり、それは児との対面を待ち望んでいることへの表れでもある。」と述べている。

妊産婦がよりよい出産を望むのは、いつの時代においても同じである。しかし、現在のわが国における妊産婦の生活環境においては核家族化、育児の学習の場が少ない、少子化、情報過多等様々な問題を抱えている。そこで、妊婦が自分の妊娠、出産を具体的にイメージし、これらに主体的に取り組むことができ、ひいては、よりよい出産を迎えられるために、妊産婦保健指導にイメージペーパー*を取り入れた。また、イメージペーパーを取り入れることにより、助産婦が妊婦の心の内面を知ることができ、妊婦が望む出産に向けて歩み寄った、個別性のある保健指導が行えるのではないかと考えた。

今回は調査時期による、イメージペーパーの記述内容の変化と調査対象妊婦、及び、分娩介助をした助産婦の出産をふりかえった印象について検討したので報告する。

研究方法

1. 調査期間及び対象

調査期間は1994年10月から1996年2月までであり、その間にA病院を妊娠前期で受診し、その後出産までの経過を把握した妊婦の中から抽出した50人を対象とした。

*イメージペーパーとは、特に妊婦が妊娠、出産を受容するために、自覚の必要とされる項目を妊産婦保健指導内容から選択しまとめたもの。(添付資料1)

2. 調査方法

同一対象への調査は3回行った。すなわち、妊娠前期（妊娠初期から妊娠16週まで）、妊娠後期（妊娠34週から出産まで）、出産後（出産後1日以内）である。妊娠初期及び後期の調査とも、助産婦外来でイメージペーパーを渡し、次回受診時に提出する留置法によった。質問への回答は自由表記とした。出産後の調査*2は出産の印象を質問紙調査法（留置法）によった。また、出産後の調査*3は分娩を介助した助産婦にも行った。

3. 分析方法

1) 妊娠前期調査の質問(1)(2)(3)と 妊娠後期(2)(3)について回答中、妊娠出産に対して受容的、肯定的意味を持つ語句（うれしい、楽しみ、早く逢いたい、いとおしい等）をプラスの心理とし、これらの記述があった場合、「プラスの心理1人」、また同じ回答中、妊娠出産に関して、拒否的、否定的意味を持つ語句（戸惑い・不安・心配等）を以後マイナスの心理とし、これらの記述があった場合、「マイナスの心理1人」と計数し、質問ごとにのべ数を集計した。従って、同一妊婦でも回答中にプラスの心理、マイナスの心理両方が記述されていた場合「プラスの心理1人」、「マイナスの心理1人」と重複した計数になる。

2) 妊娠前・後期調査全般について

回答中、望ましい妊娠、出産を迎える上で、特に重要であると考えられる2点、すなわち、母子関係形成を意味する態度（母子関係と後略）を示す語句（赤ちゃんに話かけている・二つの命が共存・もぞもぞ動く元気に頑張っていると合図してくれる等）の記述があった場合「母子関係1人」、また、出産への心理的、具体的準備（出産準備と後略）を示す語句（主人と二人で力を合わせて、生まれてくる日のために少しずつ環境を整えている・精神的にゆったり、のんびり過ごせるようにしている・バランスのとれた食事を心がけ、毎日運動をして健康的に明るく過ごしていきたい等）の記述があった場合、「出産の準備1人」と計数し、質問ごとにのべ数を集計した。

3) 出産後調査について

産婦の出産の満足度に関する質問(1,9)(添付資料2)と助産婦の出産介助の満足度に関する質問(1,4)(添付資料2)について、各段階毎に回答数を集計した。

結果（図1）

1. 妊娠前期調査の集計

1) 今回の妊娠を知り、私はどのように感じ、家族はどのように感じていますか。

プラスの心理42人(84%)、 マイナスの心理14人(28%)、 母子関係11人(22%)、
出産の準備10人(20%)、 その他（家族の楽しみ等）19人(38%)であった。

2) 妊娠してから出産までの間を、どのように過ごしたいと考えていますか。

プラスの心理0人、 マイナスの心理0人、 母子関係6人(12%)、 出産の準備36

* 2 出産後の調査は、出産の印象について質問したものであり、産婦用と助産婦用を用意した。
(添付資料2)

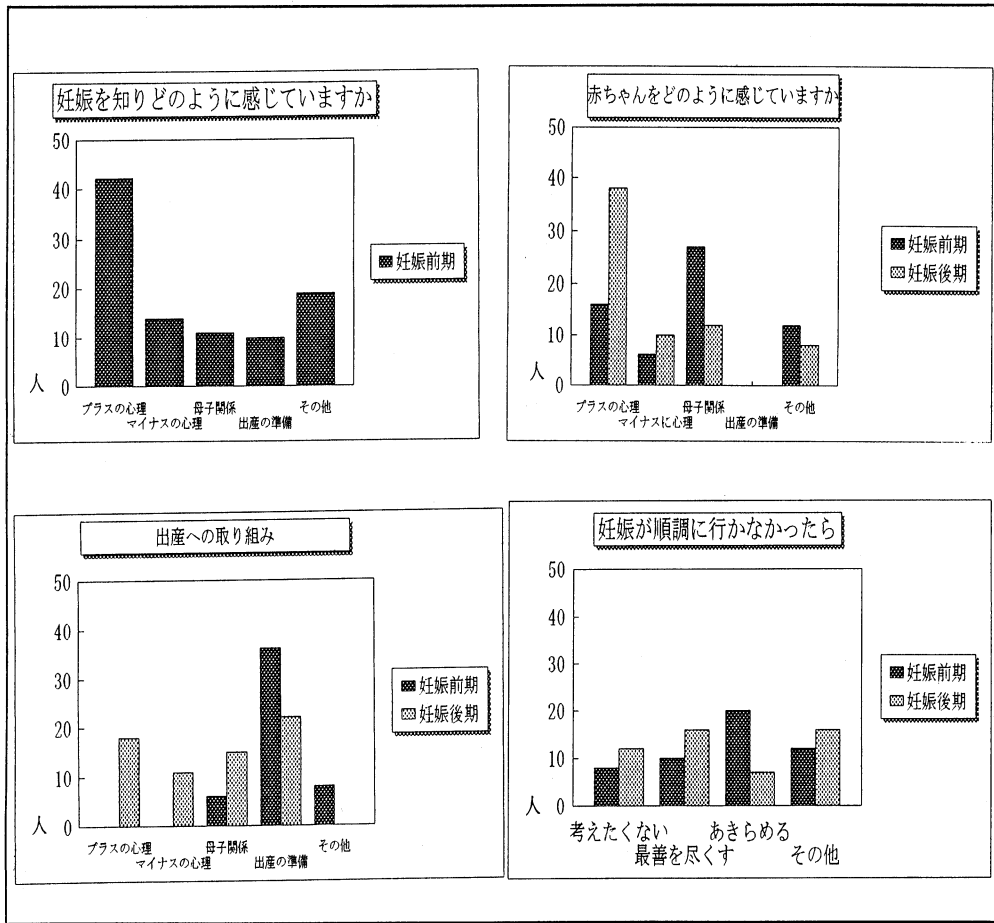


図1 イメージペーパーの結果（妊娠前期・後期）

人(72%)、その他8人(16%)、出産の準備の回答内容は(精神的にゆっぴりのんびり過ごせるようにしたい・体をいたわり、楽しく過ごしていきたい等)であった。

3) 今、お腹にいる赤ちゃんをどのように感じていますか。

プラスの心理16人(32%)、マイナスの心理6人(12%)、母子関係27人(54%)、出産の準備0人、その他12人(24%)、母子関係の回答内容は(いとおしく思う・小さいながらも一生懸命お腹の中で頑張っている小さな生命を大切に育てたい・ふたつの生命が共存し大切な生命を預かっている等)でした。

4) もし、妊娠や出産が順調に行かなかった場合どのように考えますか。

考えたくない、考えられない8人(16%)、最善を尽くして欲しい10人(20%)、あきらめる20人(40%)、その他「先生や助産婦に従う」等12人(24%)であった。

2. 妊娠後期調査の集計

1) 私・夫婦が望む出産を具体的に書いて下さい。

夫立ち会い分娩15人(30%)、自然出産12人(24%)、親子で出産6人(12%)、会陰切開なし6人(12%)、その他6人(12%)であった。その他の内訳は夫立ち会いを希望しない3人(6%)、助産婦の指導に従う出産2人(4%)、帝王切開1人(2%)であった。

2) 私・夫婦が出産に対してどのように取り組んできましたか、これからどのように取り組みたいですか。

プラスの心理18人(36%)、マイナスの心理11人(22%)、母子関係15人(30%)、出産の準備22人(44%)、その他0人でした。プラスの心理の回答内容は(妊娠している喜びは女の人の特権・早く会いたい・いとおしく思う等)。マイナスの心理の回答内容は(大きいお腹から解放されたい・陣痛に耐えられない・子どもへの愛情が半減しそう等)であった。出産の準備の回答内容は(赤ちゃんの産着を用意して早く赤ちゃんに会う日を楽しみにしている・出産をイメージして体操をしている・栄養のバランスを考えて食事をしている・2人で本を読み、常にあかちゃんに声をかけ主人と私の存在を示してきた等)であった。

3) 今、お腹にいる赤ちゃんをどのように感じていますか。

プラスの心理38人(76%)、マイナスの心理10人(20%)、母子関係12人(24%)、出産の準備0人、その他8人(16%)であった。プラスの心理を回答しているのは38人(76%)、マイナスの心理のみを回答しているのは2人(4%)、マイナスの心理とプラスの心理の両方を回答しているのは8人(16%)であった。プラスの心理の回答内容は(かわいい・いとおしく思う・うれしい・楽しみ等)であり。母子関係の回答内容は(胎動を感じるたびに生命を持った1人の人間として確実に成長していると感じる・会話中に赤ちゃんが動くと一緒に会話に加わっているような気がする・日を追うごとに愛情が増す等)であった。

4) もし、妊娠が順調に行かなかった場合、どのように考えますか。

考えたくない、考えられない12人(23.5%)、最善を尽くして欲しい16人(31.3%)、あきらめる7人(13.7%)、その他「先生や助産婦に従う」等16人(31.3%)であった。

3. 出産後調査の集計(図2)

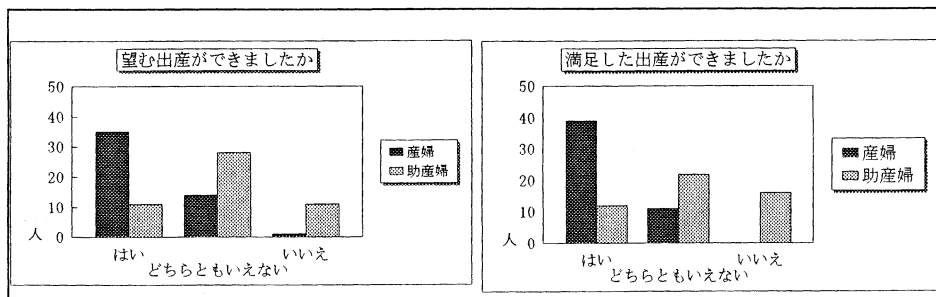


図2 出産後調査結果(産婦・助産婦)

[産婦用]

1) 自分の望む出産ができましたか。

はい35人(70%)、どちらともいえない14人(28%)、いいえ1人(2%)であった。

2) 今回の出産を振り返って、満足した出産ができたと思いますか。

はい39人(78%)、 どちらともいえない11人(22%)、 いいえ0人(0%)であった。

[助産婦用]

3) 産婦の望む出産を理解し、援助できましたか。

はい11人(22%)、 どちらともいえない28人(56%)、 いいえ11人(22%)であった。

4) 満足した出産介助ができましたか。

はい12人(24%)、 どちらともいえない22人(44%)、 いいえ16人(32%)であった。

考 察

1. 妊娠初期の妊娠の受容について

カプラン³⁾の調査によると「妊娠初期は初妊婦の85%に否定的な感情がみられるが、妊娠4ヶ月の終わりになると妊婦の85~90%が妊娠を受け入れるようになった¹⁾と報告していることから。本研究の妊婦はプラスの心理を42人(84%)が回答していることから妊娠の受容がスムーズにしているといえる。母子関係11名(22%)と少ないことは、妊娠前期の時期の関係からまだ胎動を自覚していない時期にあるためと考える。カプランの妊娠の適応課題である「胎児を一人の個体として容認する」ことができるように胎児コミュニケーションがとれるように妊婦や夫・家族に働きかけることが必要と考える。

2. 私・夫婦が望む出産について

妊婦48人(96%)が自分の望む出産を具体的に考え回答している。これは自分の出産に対して主体的に取り組んでいる表れのひとつと考える。また、出産方法が具体化されていることは援助する助産婦側も事前に準備ができ、産婦と助産婦とのコミュニケーションがとりやすいことから産婦が望む出産につながると考える。

3. 妊娠中の過ごし方の妊娠前期と後期の比較

妊娠前期の出産の準備の回答内容は(精神的にゆったりのんびり過ごせるようにしたい、体をいたわり、楽しく過ごしていきたい等)であった。

妊娠後期ではマイナスの心理の回答内容は(大きいお腹から解放されたい・陣痛に耐えられない・子どもへの愛情が半減しそう等)であった。出産の準備の回答内容は(赤ちゃんの産着を用意して早く赤ちゃんに会う日を楽しみにしている・出産をイメージして体操をしている、栄養のバランスを考えて食事をしている・2人で本を読み、常にあかちゃんに声をかけ主人と私の存在を示してきた等)でした。妊娠後期になると子宮の増大によるさまざまなマイナートラブルが生じ、否定的感情が起きたり、間近になった出産に対する不安が生じる反面、胎動の自覚や胎児とのコミュニケーションを通して母性意識が高まり、胎児に対する親の責任や愛着が増大するというアンビパレンスな状態にある結果ではないかといえる。

4. 胎児をどのように感じているか妊娠前期と後期の比較

妊娠前期での胎児の自覚は(不思議な存在・実感がなく・小さな生命等)の存在であるが、妊娠後期になると(生命を持った1人の人間として確実に成長していると感じる・日を追うごとに愛情が増す等)から胎児をひとりの人間として容認していることが明らかになった。また、プラスの心理を38人(76%)が回答しているのは妊娠経過とともに妊娠の適応課題を克

服し、母性意識が高まり母親としての自覚と責任から胎児に対する愛着が増大した結果と考える。

5. もし、妊娠が順調に行かなかった場合の妊娠前期と後期の比較

妊娠が順調に行かなかった場合（考えたくない、考えられない）と回答した妊産婦が大半であることは『母子衛生の主なる統計』1995年が示しているように、妊産婦の栄養状態や医療環境もよく、妊産婦の意識の中に妊娠が順調にいて当然と思っていると考えられる。

妊娠前期においてあきらめる20人(40%)と妊娠後期に比べて多いのは胎児をひとりの人間として容認するまでに至っていない時期にあるためと考える。

6. 望む出産に対する産婦と助産婦の比較

産婦は望む出産ができた35人(70%)が回答しているのに対して、助産婦はどちらともいえないといいえを合わせると39人(78%)が産婦の望む出産の援助ができていない回答であった。できなかった理由に（希望を確認しないまま分娩になった、産婦の望む出産の理解不足、あまり関わり合えなかった等）であった。産婦とのコミュニケーション不足が起因している理由が多いことから、妊娠中からの関わりを大切にすることと、産婦の望む出産の援助ができるようにイメージペーパーの活用や助産婦間でのカンファレンス等の検討が必要と考える。

7. 満足した出産に対する産婦と助産婦の比較

産婦は満足した出産ができた39人(78%)が回答しているのに対して、助産婦はどちらともいえないといいえを合わせると38人(76%)が満足していない、その理由は（医師が主体になった、産婦に不安な思いをさせてしまった・分娩経過に沿って適切な援助ができなかった等）をあげている。南野⁴⁾は「分娩が正常に経過するためには、産婦も助産婦側も、それぞれの役割が適切に効果的に展開されることが必要である。産婦自身の心身の準備などが必要なのは当然であるが、それを援助する側の準備も大切である。」と述べているように妊娠中からの準備が大切であることから産婦とのコミュニケーションを大切にされた援助とイメージペーパーの活用の検討が必要と考える。

結語

1. 妊娠前期の過ごし方については（精神的にゆったりのおんびり過ごせたい・体をいたわり・楽しく過ごしていきたい等）精神的に安定した過ごし方を考えていることが明らかになった。妊娠後期になると子宮の増大によるさまざまなマイナートラブルが生じ、否定的感情が起きたり、間近になった出産に対する不安が生じる反面、胎動の自覚や胎児とのコミュニケーションを通して母性意識が高まり、胎児に対する親の責任や愛着が増大するというアンビバレンスな状態にあることが明らかになった。

2. 妊娠前期での胎児の自覚は（不思議な存在・実感がない・小さな生命等）の存在であるが、妊娠後期になると（生命を持った1人の人間として確実に成長していると感じる・日を追うごとに愛情が増す等）から胎児をひとりの人間として容認していることから胎児の自覚の変

化がわかった。

3. 産婦の出産時の自己評価と助産婦の自己評価では、産婦の多くは望む出産や満足した出産ができたと回答しているのに対し、助産婦は産婦の望む出産の援助や満足した出産ができたと回答している者が少なく満足していない。この差を生じる要因については今後の検討課題である。

4. 妊婦がイメージペーパーに回答する過程の中で、妊娠、出産を具体的にイメージしていることがわかった。このことより妊産婦保健指導にイメージペーパーを取り入れることは、外来の限られた時間の中で、より妊婦の希望にそった妊娠、出産を導くのに有効であることが示唆された。

おわりに

今回の研究において妊産婦保健指導にイメージペーパーを取り入れることは妊婦が回答する過程の中で妊娠の時期により妊娠・出産への受容の変化が明らかになり、妊婦の希望にそった妊娠、出産を導くのに有効であることが示唆された。

産婦と助産婦の出産時の自己評価では、産婦は望む出産や満足した出産ができたと回答しているのに対し、助産婦は産婦の望む出産の援助や満足した出産ができなかと回答している者が多い。この差を生じる要因については不明確であるため今後の検討課題である。

今後、イメージペーパーの導入した群としない群の比較を行い、イメージペーパーの有効性や産婦、助産婦の出産に対する満足度を検討していきたい。

引用・参考文献

- 1) 井上幸子編：母子の看護，日本看護協会出版会 P.21 1991
- 2) 井上幸子編：再掲1) P.83 1991
- 3) 井上幸子編：再掲1) P.21 1991
- 4) 井上幸子編：再掲1) P.84 1991
- 5) カール・ジョーンズ，清水ルイズ訳：お産のイメージリー，メヂカ出版 1992
- 6) 大日向雅美：母性の研究，川島書店 1988
- 7) 馬場謙一：母親の深層，有斐閣 1990
- 8) 日本看護協会助産婦職能：受持制母子看護推進のために，日本看護協会 1991
- 9) 南谷佐知子他：お産の主導権を妊産婦自身に戻す，助産婦雑誌 VOL.46 NO.10 医学書院1992
- 10) 吉村典子：子どもを産む，岩波新書 1995

[1996年10月30日受理]

(添付資料1)

イメージペーパーのお願い

ご妊娠おめでとうございます。私達は皆様が安心して妊娠、出産を迎えることができることを願っております。そこで、妊娠や出産をどのような気持ちで迎え、考えておられるのかを知り、皆様に合った指導を行っていきたいと考えております。ご協力をお願い致します。

妊娠初期 (16週まで)

- ① 今回の妊娠を知り、私はどのように感じ、家族はどのように感じていますか。
- ② 妊娠してから出産までの間を、どのように過ごしたいと考えていますか。
- ③ 今、お腹に居る赤ちゃんをどのように感じていますか。
- ④ もし、妊娠が順調に行かなかった場合どのように考えますか。

妊娠後期 (34週以降出産まで)

- ① (私が夫婦)が望む出産を具体的に書いて下さい。
- ② (私が夫婦)が出産に対してどのように取り組んできましたか、これからどのように取り組みたいですか。
- ③ 今、お腹に居る赤ちゃんをどのように感じていますか
- ④ もし、妊娠や出産が順調に行かなかった場合どのように考えますか
- ⑤ (私が夫婦)が考えている育児について書いてください。

(添付資料2)

(産前) 出産時の評価基準 (出産時の満足度)	(産後) 出産時の評価基準 (出産時の満足度)
I 産婦自身についての質問	はい・どちらともいえない・いいえ
1 自分の出産として喜びを感じることができましたか。	1 産後の望む出産を理解し、更新できましたか。
2 陣痛を自分で乗り越えることができましたか。	はい・どちらともいえない・いいえ
3 自分の望む出産ができましたか。	2 分娩経過にそって、適切な説明と援助ができましたか。
4 若い陣痛の間でも、赤ちゃんに会いたという、待ちどわしい気分になりましたか。	はい・どちらともいえない・いいえ
5 分娩経過中に、自分なりに身振または楽な出産方法を選択できましたか。	3 産婦が必要とする時に適度について援助ができましたか。
6 自分の出産の経過を理解しながら、出産を望むことができましたか。	はい・どちらともいえない・いいえ
┌ 帝王切開・吸引分娩・会陰切開等の処置を受けられ方に満足します。	4 助産婦として、満足した出産介助ができましたか。
l) その経過 (帝王切開・吸引分娩・会陰切開等) を理解し納得することができましたか。	理由.....
7 医師・助産婦のアドバイスが受け止められましたか。	はい・どちらともいえない・いいえ
8 赤ちゃんが互体満足で元気な生まれ、嬉しかったですか。	理由.....
9 今回の出産を振り返って、満足した出産ができたと思いませんか。	はい・どちらともいえない・いいえ
II 助産婦の行動についての質問	理由.....
1 自分が必要と思う時に、助産婦が働いて助けてくれましたか。	ご協力ありがとうございました。
2 自分の望む出産を理解し、適切な援助をしてくれましたか。	はい・どちらともいえない・いいえ
ご協力ありがとうございました。	理由.....

